病院名	北上済生会病院
研修科目名	小児科

◇　研修目的

小児科は、年齢ごとに異なった特性を持つ小児へのヘルスケア全般を対象とし、小児科診療に必要な診察・検査・治療法を習得する事を目標とする。

日本小児科学会及び新生児医学会指定研修施設として、感染症などの一般的な小児科疾患から、他の病院から搬送される重症例まで対応しており、幅広い研修をする。

◇　ＧＩＯ（一般目標）

頻度の高い症候の鑑別判断と対処法及び保護者への対応と支援の実際を学ぶ。
入院が必要な理由を理解し、病児と保護者の心理状態を理解することの重要性を学ぶ。

◇　ＳＢＯs（個別行動目標）

１．小児の成長と発達、それに応じた特性を理解できる。
２．年齢ごとのcommon disease重症疾患を鑑別できる。
３．医療面接、診察、診断、対処の方法を学ぶ。
４．新生児の一般的管理ができる。
５．病児の診断、治療計画を立てることができる。
６．基本的な手技を行うことができる。
７．基本的な臨床検査の結果を解釈できる。
８．基本的な薬剤の使用法を理解し、処方ができる。
９．輸液の対応を理解し、輸液の種類と必要量を決めることができる。

◇　教育に関する行事

	午前	午後
月	病棟回診	病棟回診
火	病棟回診	乳児検診
水	病棟回診	外来診察
木	病棟回診	超音波検査
金	病棟回診	予防接種

◇　研修評価

診察・診療（医療面接を含む）、手技及び処置の研修評価を指導医が評価し、また
科内症例検討会での発表を参考に指導医が研修の総合評価を行う。

◇　研修方法

（１）外来：　指導医の指導・監督のもとで、common diseaseのプライマリ・ケア、乳幼児検診、予防接種などを研修する。

（２）病棟：　指導医の指導・監督のもとで、基本的診療（診断・検査・治療）と手技を研修する。

（３）救急：　指導医の指導・監督のもとで、救急対処法の判断と手順、他科医との連携を経験する。

◇平成27年度指導責任者及び指導医

小児科指導責任者　村　上　洋　一

病院名	北上済生会病院
研修科目名	産婦人科

◇　研修目的

産婦人科学の理解を深め、婦人性器・性機能に関する知識を修得し、妊娠、分娩、産褥、胎児、新生児管理及び婦人科疾患の管理に必要な知識、態度、技能を修得することを目的とする。

〔総合目標〕

１．女性特有のプライマリ・ケアを修得する。
２．女性特有の疾患による救急医療を修得する。
３．妊産褥婦及び新生児の医療に必要な基本的知識を修得する。

◇　経験すべき検査・手技・治療

【生殖生理学】

◇　ＧＩＯ（一般目標）

産科の臨床生殖生理学の基本を理解し、産科疾患の診断、治療技術を習得する。

◇　ＳＢＯｓ（個別行動目標）

１．正常妊娠、分娩、産褥の管理
２．異常妊娠、分娩、産褥の管理
３．妊婦、産婦、産褥の薬物療法
４．産科検査法

【婦人の解剖・生理学】

◇　ＧＩＯ（一般目標）

婦人の解剖、生理学を理解し、婦人科疾患の診断、治療技術を習得する。

◇　ＳＢＯｓ（個別行動目標）

１．婦人科感染症の診断、治療
２．良性、悪性腫瘍の診断、病理、治療
３．内分泌異常の診断、治療
４．不妊症の診断、治療

【感染症学】

◇　ＧＩＯ（一般目標）

産婦人科感染症学を理解し、診断、治療技術を習得する。

◇　ＳＢＯｓ（個別行動目標）

１．産科の感染症
　①妊婦感染症の特殊性の理解及び治療
　②周産期感染の診断、治療及び予防
２．婦人科の感染症
　①性感染症の特徴の理解及び治療
　②婦人科感染症の特徴の理解及び治療

◇　教育に関する行事

	午前	午後
月	病棟回診	手術
火	病棟回診	
水	病棟回診	手術
木	病棟回診	

金	病棟回診	手術

◇　**研修評価**

研修終了時に、指導医により目標の到達状況についての評価を行う。

◇　**研修方法**

指導医の指導、監督のもとに研修を行う

①産婦人科問診カルテ記載法の修得

②産婦人科における基本的診察法（外診・内診）の修得

③産婦人科超音波検査法の修得

④産婦人科手術時の手洗い方、患者体位、手術器具の名称と機械の取り扱い等、産婦人科手術に関する基本的操作の修得

⑤正常分娩の取り扱い、会陰切開と縫合術、各種異常妊娠、分娩の検査方法、産婦人科腫瘍、内分泌疾患の知識と検査法の修得

◇平成27年度指導責任者及び指導医

産婦人科指導責任者　　小　山　俊　司

病院名	北上済生会病院
研修科目名	精神科

◇　研修目的

精神疾患患者に対する適切な対応を行うため、精神科主要疾患を経験し、それらに関する知識、診療技術を習得し、また、医療スタッフや患者家族との連携を含めて医師としての態度を習得するとともに、精神保健福祉の知識、理解を深めることを目標とする。

◇　ＧＩＯ（一般目標）

心の病気という精神的、心理的、身体的な複雑な問題を抱える患者に対して、総合的に問題の解決にあたることを目標とする。

◇　ＳＢＯｓ（個別行動目標）

１．精神医学的面接技法を修得する。
２．病歴聴取の技術を修得し、その中から精神医学的に必要な内容の予測をする。
３．主要な精神疾患の診断及び鑑別診断を修得する。
４．精神科救急の診察法を修得する。
５．各種の検査法を修得し、解釈できる。
６．精神科治療方法を選択し、実施できる。
７．患者、家族との適切なコミニュケーションがとれる。
８．コンサルテーション・リエゾン精神医学を理解し実施できる。
９．精神保健福祉法を理解し、実行することができる。
10．デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

◇　研修評価

研修終了時に、指導医により目標の到達状況についての評価を行う。

◇　研修方法

（１）外来：　指導責任者の指導・監督のもと、外来の初期治療に参加、救急外来での研修を行う。

（２）病棟：　指導責任者の指導・監督のもと、主要な疾患の治療に参加し研修を行う。
コンサルテーション・リエゾン精神医学の研修を行う。

◇平成27年度指導責任者及び指導医

精神科指導責任者　　八　木　　深（国立病院機構花巻病院院長）

病院名	北上済生会病院
研修科目名	麻酔科

◇　ＧＩＯ（一般目標）

手術患者の麻酔管理をとおして、気道確保、気管挿管、呼吸循環管理等の基本的な知識、技術を身につける。

◇　ＳＢＯｓ（個別行動目標）

１．患者監視装置の使用法を理解し、正しく装着できる。
２．麻酔器の構造及び取り扱いについて説明できる。
３．麻酔器の始業点検ができる。
４．気道確保の方法を列業し、その適応を述べることができる。
５．麻酔器を用いて、バッグアンドマスクができる。
６．気道挿管に必要な器具を準備できる。
７．気道挿管における合併症を列業し、その対策を述べることができる。
８．喉頭展開の手技を理解し、愛護的な気管挿管ができる。
９．挿管された患者の呼吸管理ができる。
10．気管内及び口腔内を吸引して、気管チューブを抜管できる。
11．麻酔中の心電図、血圧など循環の解釈ができる。
12．Sp02,EtCo2の解釈ができる。
13．麻酔薬、筋弛緩薬の特性が理解できる。
14．全身麻酔の手技を理解し、麻酔中の異常を発見できる。
15．静脈路を確保することができる。
16．観血的動脈圧測定のためのカニューレを留置できる。
17．昇圧薬、降圧薬等、急変時使用薬の投与法を説明できる。
18．手術中の患者の生理的変化や病態を理解し、患者監視装置からの情報を解釈できる。
19．全身症状を考慮した輸液管理ができる。
20．出血量や患者状態を把握し、適切な輸血ができる。
21．薬物動態を理解し、麻酔薬を使用することができる。
22．感染予防を考慮し、スタンダードプリコーションを実践できる。
23．術後訪問の重要性を認識し、実践できる。
24．術後の患者の状態を適切に記録できる。
25．チーム医療の重要性を認識し、指導医、他科の医師、看護師、コメディカルと協調できる。

◇　研修評価

研修終了時に、指導医により目標の到達状況についての評価を行う。

◇平成27年度指導責任者及び指導医

岩手医科大学　麻酔科

病院名	北上済生会病院
研修科目名	地域医療

◇　研修目的

地域住民が生涯に亘り住み慣れた環境で健やかに生活できるように、地域における保健、医療、福祉施設の役割を理解し実践するための知識、技術、態度を修得し、地域で医療活動を行うことを目標とする。

また、研修施設の岩泉病院はへき地医療拠点病院であり、それまでの研修で修得した基本的臨床能力の実践と応用が求められる。

◇　ＧＩＯ（一般目標）

地域医療を必要とする疾患、家族に対して全人的に対応するため、地域医療施設の役割を理解し、基本的な知識、技能、態度を修得する。

◇　ＳＢＯs（個別行動目標）

１．当該施設の地域医療における役割を理解する。
２．病診連携のシステムと重要性を理解する。
３．診療情報提供など、他施設との円滑な情報の授受ができる。
４．介護保険制度の概要を理解する。
５．介護保険認定意見書を作成できる。
６．地域・職場・学校の検診、予防接種に参加する。
７．診療所診療、訪問診療に参加する。
８．地域住民を対象とした健康教育・相談に参加する。
９．地域の救急医療における初期診療を実施できる。

◇　研修評価

研修終了時に、指導医により目標の到達状況についての評価を行う。

◇　研修方法

指導医の指導のもとで、外来診療では地域医療における初期対応、病棟では入院患者の担当医としての自覚をもって研修にあたる。

また適宜、指導医とともに当直を行い、緊急時、急変時の対応を経験する。

◇平成27年度指導責任者及び指導医

地域医療指導責任者　柴　野　良　博（済生会岩泉病院院長）